

記入例

遺伝子組換え生物等使用実験を行なう実験室の拡散防止措置チェックリスト
(P3レベル微生物使用実験)

実験室名: E 学部 P3 実験室

検査項目	検査結果
施設等	
通常の生物の実験室としての構造および施設	有
前後の扉が同時に開かない前室の設置	有
容易に水洗・燻蒸でき密閉状態が維持される構造	有
足、肘等又は自動で操作可能な手洗い設備	有
空気が内側へ流れる給排気施設	有
排気が実験室内や他の部屋に再循環されない設備	有
安全キャビネット(移動せずに検査・整備・燻蒸可能)	有
室内に高圧滅菌器	有
真空ポンプを使う場合は消毒液を用いた捕捉装置を設けた専用のものを設置	真空ポンプを使用せず
遺伝子組換え生物等による汚染物の不活化	
廃棄物の不活化措置	実験室内のオートクレーブで処理後にパスボックスで UV 照射して P3 外に持ち出して廃棄
機械・器具の不活化措置	使用した病原体を適切に不活化する消毒薬(70%エタノール)で滅菌
実験台・安全キャビネットの不活化措置	使用した病原体を適切に不活化する消毒薬(70%エタノール)で滅菌。安全キャビネットは、使用終了後に UV 照射する。
作業衣等の廃棄等の前の不活化措置	滅菌バッグに入れて実験室内のオートクレーブで処理後にパスボックスで UV 照射して P3 外に持ち出して廃棄
実験室使用	
実験室の扉の閉鎖(出入り時以外)	出入りの時以外は閉鎖
実験室の窓等の閉鎖	窓はない。パスボックスは、片方しか開かず、両方閉じた状態ではパスボックス内の物に対する UV による滅菌が可能である。
エアロゾルの発生を最小限にする	エアロゾルが発生する可能性がある操作は全て安全キャビネット内で行い、かつ極力発生しないようにピペティングのさいの泡の発生などに注意する。
エアロゾルを生じ得る操作を安全キャビネットで行なう	ピペティングや超音波破碎等のエアロゾルを生じえる操作を全て安全キャビネットで行なう。
持ち出すときは漏出しない容器に入れる	基本的に P3 レベルの遺伝子組換え生物は不活化しない状態では持ち出さない。どうしても必要な場合は、試料名を書いた密栓できるポリプロピレン製チューブにいれてふたをし、パラフィルムでふたを固定したうえで密閉できるプラスチック容器に入れる。外側のプラスチック容器には「取扱注意」の表示をする。
専用の作業衣(長袖、前が開かないもの)着用	長袖で前が開かない指定の作業衣を着用する。
保護履物、保護帽、保護眼鏡、保護手袋着用	長靴、帽子、眼鏡、ゴム手袋を着用する。
排水を不活化後に排出	排水をため、オートクレーブ処理後に廃棄
関係者以外の入室制限	講習を受講した許可者のみに入室カードを発行する。このカードをカードリーダーが認識した場合のみに扉が開く。入室カードを所持しないものは入室させない。

エアロゾルが生じ得る操作中の入退室禁止	パスボックスより実験室を目視し、エアロゾルを生じえる実験を行なっているか確認した後に入室する。また、退室する場合もエアロゾルが生じる操作をしていないことを確認する。
「P3レベル実験中」の表示	有

その他:70%エタノールのスプレーを常備し、汚染が疑われた場合は速やかに不活化の操作を行なう

平成18年 5月25日
 検査担当者(実験室の管理責任者)
 所属 E 学部 B 講座 C 分野
 名前 高橋悠治 印

安全主任者による確認
 平成18年 5月26日
 名前 山下和仁 印